

2023年度実践報告

# 世界と 日本の 学びを 繋げよう!



AG+ ICT部会グループ2

日本人補習校

日本人学校

×

立命館小 5年生

## 世界と日本の学びを繋げよう！

文科省「在外校の特色化教育プログラム促進事業：教育 DX 推進プログラム」の一環として、日本（立命館小学校）と北米、南米、中米にある在外校 15 校の児童（延べ参加者数 138 人）で行った ICT 教科横断

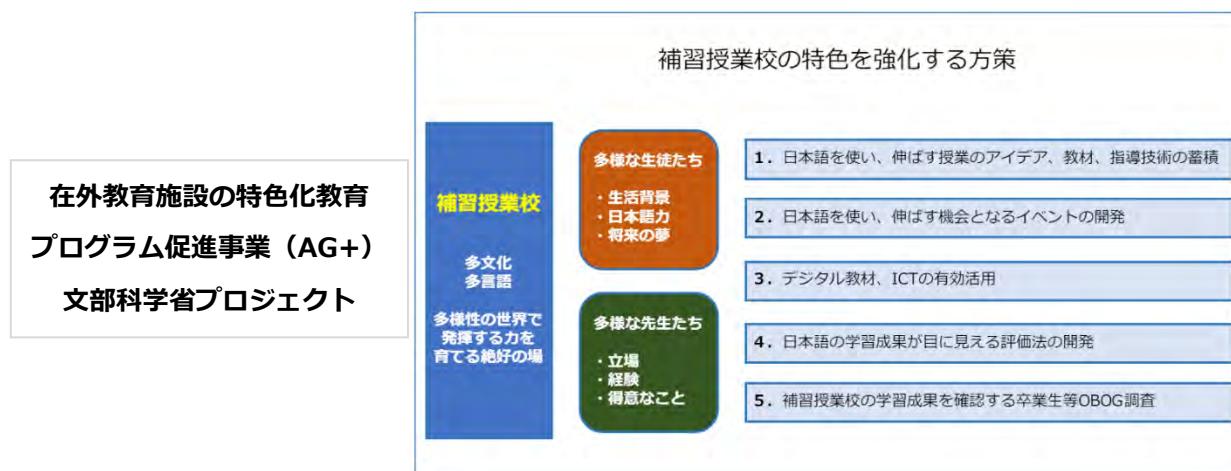


型 ZOOM 合同授業。世界初の試みとなる今回の研究実践では、時差や国境、教科や学年、学校の種類（日本人学校と補習校）を超え、子どもたちが共に学ぶ授業が実現した。

### 合同授業の背景

2023 年 4 月、文部科学省・外務省が、『在外教育施設における教育の振興に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針』を発表した。これは、「在外教育施設における教育の振興に関する法律」（在外教育施設振興法）に基く。この新法では、国際的社會で成功する創造的人材の育成や、在外教育機関間の協力などを目標としている。

これを受けて設置された文科省「在外教育施設重点支援プラン」（AG+事業）の研究に、四つ葉学院が 2017 年から参画。「多様化する補習授業校のニーズに対応したグローバル人材育成のためのプログラム開発と補習授業校間のネットワークの形成」プロジェクトの一環として、立命館小学校との協働設計により、今回の ICT 合同授業を開催した。



<https://ag-5.jp/cms/ag5/common/pdf/theme4/2404AGCompact.pdf> より一部抜粋

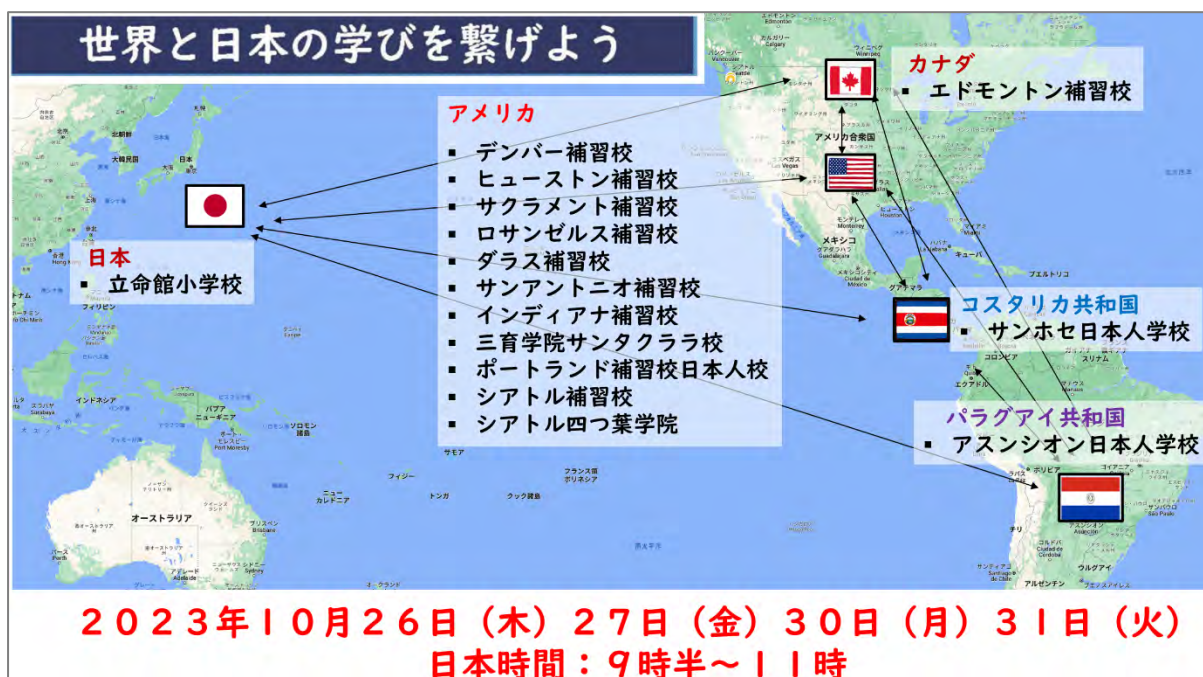
また、立命館小学校では、様々な海外研修や海外交流校の児童受け入れ、そして日本の大学で学ぶ国際学生との交流行事等を通じて、児童が異文化に触れて視野を広げる体験型の教育実践に数多く取り組んできた。それらはどれも対面による活動であったため、新型コロナの影響下に置いては、全てが休止となった。現在はようやく対面による活動も復活しつつあるが、その時期に往来が難しくなったことにより、オンラインでの国際交流が幅広く促進され、むしろ可能性が広がった面もある。当時の実践の一つである 2021 年度に取り組んだ四つ葉学院の児童と立命館小学校 5 年生児童とのオンライン交流授業は、交流相手が日本に何らかのルーツをもつ子どもであり、日本語と英語を併用した交流の機会をもたらした。四つ葉学院では英語が強く日本語は継承語他の状況下にある言語であり、逆に立命館小学校では日本語が第 1 言語で、英語は学習中の外国語であるという双方の事情をふまえて、日英語のトランスランゲージングがうまく機能した事例となった。また、新型コロナ禍中の経験が功を奏し、小学生ながら、Zoom 画面を開きつつ、Teams でのファイル共同編集等もスムーズに行えるというデジタルリテラシーの高さが、こうした国際グループ共修を可能にしたという発見も、その後のオンライン国際交流の可能性の幅を広げる要因となった。

こういった経験を通して、2023 年度には「世界と日本の学びをつなげよう」をテーマとして、複数の在外校と立命館小学校の子ども達が共に学ぶ、よりダイナミックなオンライン交流授業へと展開するに至った。



## 合同授業の枠組み

2023年10月、立命館小学校と在外校15校の子ども達をZOOMで繋ぎ、ICT教科横断型合同授業を開催。今回の合同授業では、北米、南米、中米からの子ども達が、時差、国境、教科、学年、学校種（日本人学校と補習校）を超えて、在外校児童延べ人数138人が参加した。



教師主導の一斉授業ではなく、立命館小学校の5年生児童が班ごとに役割分担して、子どもたち同士が協働し授業を進行するアクティブラーニング形式で実施した。具体的には、Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用し、小グループ（本校児童3名、在外児童2～3名）に分かれて役割分担を行い、児童自らがファシリテーターとなって交流を進行する協働学習のスタイルで行った。全体で授業の流れを確認した後は、各グループで、アイスブレイクとして「共通点を見つけよう」ゲームで互いに質問をし合いながら、チーム全員の共通点を見つけるやり取りを通して緊張をほぐし、音楽科で学んだ琴演奏と日舞を披露した上で、モニター越しに実際に一緒に踊ったり、浴衣の着方のデモンストレーションを行い、英語科で取り組んだ京都の伝統産業をクイズ仕立てのスライドを活用しながら紹介するという流れで授業を実施した。この間、教師は各チームの様子を見てまわったが、基本的に各チームの進行は全て児童に委ねた。

効果的な授業法や、国際理解への興味・関心に関連する要因を探りながら、補習校の国語科での学びを広げる活動为目标に、2023年10/25,10/26,10/29,10/30と、ホスト校立命館小学校中心に4日間にわたり展開した。

	内容
①9:35-今日の授業の流れについて (全体)	今日のオンライン交流授業の流れをおさらいしよう。 「立命館小学校はこんなところ！」も紹介します。
②9:40-共通点を見つけよう！ゲーム (ブレイクアウトルーム)	チームのみんなのことを知ろう！  「朝ごはんはどんなものを食べてるのかな？」 「好きなお菓子やアニメは何だろう?!」 いろいろな質問してみよう！
③9:50-10:20京都と世界を知ろう (ブレイクアウトルーム)	①立命館児童→「京都の伝統産業」紹介 ②在外校児童→「住んでいる国や地域の特色」紹介 お互いの発表が終わったら、質問や感想を伝え合おう！
10:20-10:30 (グループチェンジ)	立命館小学校の児童が移動します。
④10:30-10:50雅な京都体験 (ブレイクアウトルーム)	①浴衣を着てみよう ②琴を知ろう「さくらさくら」 ③日舞を知ろう「京都の四季」
⑤10:50-今日の交流授業の振り返り (全体)	メインルームにみんなで集合して、授業の振り返りをしよう！ 口頭・チャットでの感想交流

### 合同授業の内容

四つ葉学院がこれまでに行ってきた他州の補習校中学部との国語×SDGs 交流授業や、都内及び立命館小学校とのICT教科横断型合同授業の研究実践を礎に、補習校での学習と立命館小学校で音楽科及び英語科で取り組む日本の伝統文化を学ぶ単元をリンクさせ、より一層、交流の必然性を深める教科横断型授業（国語×社会×音楽×国際理解）を計画した。

### 【交流学习概要】

学習活動	日本の伝統文化を感じて 体験して 伝え合おう！	70分～80分
単元目標	伝統文化芸能について関心をもち、理解を深めるとともに、学習課題に沿って交流することができる。	
主な学習活動	伝統芸能の琴の音や、日舞について、由来や特徴を知り、感想や意見を伝え合う。  それぞれの地域の伝統文化や特色をスライドやパンフレットにまとめたものを英語と日本語で紹介し、質問したり、答えたりしてオンラインでの交流を楽しむ。	

【交流授業活動計画】

構成	内容	活動	ポイント
全体	○めあてと流れ 確認 ○アイスブレイク	めあてと本時の流れを確認する  「共通点を見つけよう！」ゲーム (ドキドキ緊張を和らげよう!) グループ全員の共通点を見つける	オンラインでの交流活動が促進されるよう、楽しくコミュニケーションができる場作り。 質疑応答は英語・日本語どちらでも OK。メモ担当は共通点を記録 共通点をチャットに書き込む
ブレイクアウトルーム	京都と世界を知ろう	①学校+京都学の紹介 ②Kyoto special jobs 紹介 (立命館児童) ③在外児童からの質問、感想交流 ④在外児童の滞在国や地域の文化・特色紹介 ⑤立命館児童からの質問、感想交流	京都の伝統産業について学習したことや、事前に調べたことをクイズ形式で紹介 在外児童にとっては、滞在国や地域等の文化、特色を紹介を通した日本語での発表活動とやり取りの場を経験する
	雅な京都体験	①浴衣を着てみよう (着付けデモンストレーション) ②琴を知ろう (演奏、説明) 「さくらさくら」演奏、お琴自体の説明、質問感想交流 ③日舞を知ろう 「京都の四季」演舞、一緒にやってみる ④ チャットで感想等の交流	実際に鑑賞して考えたことなど意見交換できるように、意見交流会 準備シート等を準備。 伝統芸能の琴の音や、日舞、和服センスの扱い等について、由来や特徴を知り、感想や意見をチャット機能を用いて伝え合う。
全体	振り返り	①学びや感想をチャットに書き込む ②口頭での感想交流 ③画面越しの集合写真撮影	チャットを用いながら、より多くの児童の感想を共有する。

【関連する教科横断型：国語、英語、音楽、社会、道徳、ICT教育】

<立命館小学校> 「学びを活かして在外児童に京都の文化を伝えよう」

音楽 日舞と琴

英語 Special Jobs in Kyoto

京都の伝統産業について伝えるプレゼン資料

(74の京都の伝統産業からチームで一つ選び調べた資料から原稿・クイズ・スライドを作成)

<在外校>

国語（光村）＊それぞれの単元の導入、発展活動、既習単元の振り返りとなる位置付け

- ・小学部 4年単元「伝統工芸のよさを伝えよう」「パンフレットを読もう」
- ・小学部 5年単元「古典芸能の世界一語りで伝える」「みんなが過ごしやすい町へ」「方言と共通語」
- ・小学部 6年単元「古典芸能の世界一演じて伝える」「日本文化を発信しよう・パンフレット作り」

社会・道徳 我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材

◆ 在外校の参加児童の感想 ◆ (google form での回答したもの的一部抜粋)

- 日本の学校や、他国の学校生活、伝統工芸や他地域に興味を持った。
- グループ発表や質問に挑戦し、緊張を克服できた
- 日本語や英語での会話が楽しく、日本語の練習をもっと強化したいと意欲をもった。
- 新しいことを知り、楽しい経験だった。
- お互いの地域について伝え合える機会がとても良かった。
- 他校とのコミュニケーションが取れ、貴重な体験だった。
- 京都の文化発表や琴の演奏、日舞を楽しむ事ができた。
- 日本に友達ができ、日本文化や京都にさらに興味が湧いた

- 踊りや三味線の練習に費やした時間と努力に感嘆した。

### ◆ 立命館小学校児童の感想 ◆ (Padlet にて記述したものの一部抜粋)



### ◆ 教職員、教育専門家の感想 ◆

- 同年代の子どもたちが、実際に世界中で出会い、文化体験をリアルタイムで共有できた国際交流の授業となった。
- 文化の相対性を学ぶ経験や実体験を子供達が実現した。
- 課題としては、目的達成のための小グループでの練習の重要性を感じた。
- コミュニケーション能力全般および母語での対話能力の向上につながる経験であった。
- 国語、社会、音楽、英語、道徳とのコラボを通じた伝統芸能の共有に成功した。
- 夢が広がり、新たなチャレンジが可能と感じた。
- 子どもたちが恥ずかしさや、ためらいを乗り越え、対話や交流を通じて成長した様子がみられた。
- 教育的な価値として、失敗を受け入れる大人側の寛容性が問われる。
- 初めての取り組みには困難が大きいものだが、4 日間にわたり、多くの子供たちに参加の機会があった。



- 子供あつての活動なので、予想外のことはたくさん起こるので、課題については、それらはお互いにカバーして工夫が必要である。
- 日本子どもたちが一生懸命「コミュニケーションをつなごう」としていて、それに海外子どもたちも一生懸命答えている姿に、ウルウルしました。日本の未来は明るい！
- 子どもたちの頑張りが伝わってくる合同授業だった。時空を超えて、同じ意見だったり「私も知ってる」と言われたりしたときの嬉しそうな顔、一方、「いままで知りませんでした」と言われたときの誇らしげな顔。子供たちのチャレンジと繋がりの実感は、大きな教育効果となって子供たちに残っていくと思う。子どもたち自身にとっても、可能性を感じたりモートになったのではないか。
- 他国他州、そして日本に住む子どもたちが、初めて会う他者との関係を、時差や国境だけでなく心の距離をも縮めようと、「関わり方」を試行錯誤しながら学んでいる子ども達の伸びやかで素直な「学びの姿」は大変印象的だった。

#### <教員の振り返り>

リアルタイムで世界の様々なところにいる同年代の子ども達が出会い、文化体験を通じた相互交流ができたこと、そして、3人1組という小グループでその交流時間のインタラクシオンに責任を負わねばならないというコミュニケーション構築の経験ができたことが、主な成果として見とれた。同時に、双方の児童の振り返りの記述では、今回の交流に対して、多岐にわたる観点から好意的な感想が多く寄せられた。それは、単に楽しかっただけではなく、恥ずかしさやためらいを乗り越え、交流を成り立たせるために行っていた様々な工夫や配慮を経て感じた達成感を含む経験自体に大きな価値があったと推察される。これは、CEFR(2020)で言うところの仲介行動にあたるコミュニケーション能力を育む機会になっていたと考えられる。しかしながら、チームによってその仲介行動には様々な違いが見られたことから、成果であると同時に課題として、今後の実践への教訓を得られた部分でもある。コミュニケーションを児童に委ねたことによる発見を踏まえ、小グループでの交流にあたっては練習を積み重ね、想定しうる場面をあらかじめ経験しておくことで、自身のコミュニケ

ーションをメタ的に捉え、改善点を自ら見出したり、仲間と交流したりするプロセスを経て、本番の zoom でのコミュニケーションをより円滑に進められることが想定される。

また、複数教科の学びを連携させた形でアウトプットの場を持つことは、我々教員にとっても新しい気付きや学びをもたらす機会となった。子ども達の学びを教科の枠に閉じるのではなく、教科専科の強みを生かし合うことで教育の質を高められる可能性を感じる事ができた。

<今後に向けて>

「在外校における授業デザインの改善と、児童生徒主体の学習活動の課題」

多くの在外校では、授業時間数が限られているため、児童生徒主体の学習活動時間を設けることが難しい。その結果、自ら話を進めたり、話し合いに参加したりするなどの意思表示ができない児童が少なからず見られる。今回のICT合同授業を通じて、授業構成の観点から大きな課題を見出すことができた。

教師主体の一斉授業から、児童生徒が主体となって学び合う活動を、それぞれの在外校の特色を活かしつつ、適切に取り入れた授業デザインを工夫して構築することが求められる。これにより、在外校の児童においても、対話的主体的な協働活動が促進され、一人ひとりの学びがさらに深まることを期待する。

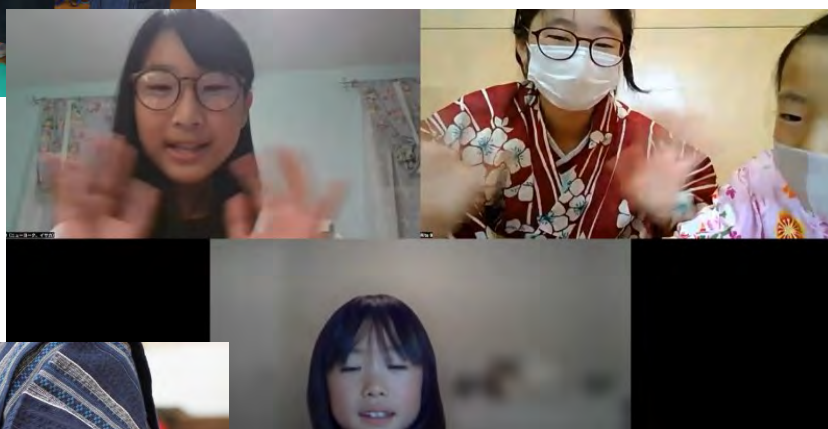
「在外校と国内校の交流が持つ国際共修の可能性」

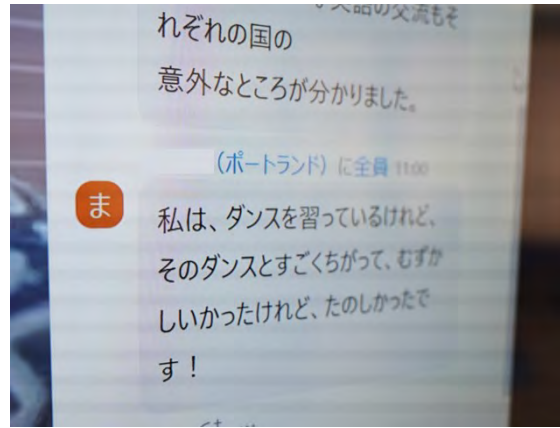
今回の実践では、立命館小学校がホストとなり、四つ葉学院の多大なるご尽力のおかげで数多くの在外校で学ぶ児童との交流が可能となった。本実践に関わった教員及び参観者の多くが児童らのリアルな試行錯誤を目の当たりにし、国際交流に期待する学びの質について、新たな問いを見出したと感じている。完成度の高い発表をゴールにするのではなく、双方向に関わり合う中で育まれる「共修」の観点から、我々教員が子ども達に経験してほしいコミュニケーションに加えて、大人の予想を超えていく子ども達の持つ可能性を最大化しうる「交流の場」をどのようにデザインしていくとよいのかが、次の挑戦になると考える。そして、それはホスト校がすべてを担うのではなく、在外校の先生方ともその可能性を探究していけ

るネットワーキングが必要である。双方の児童にとって価値ある学びを追求しながら、「交流」にとどまらない、「国際共修」を創っていく仕組みづくりと教員間の関わり合いの構築も、次に歩を進めるための課題であり挑戦のしどころとなる。

また、日本語と英語の両言語を用いたトランスランゲージングが機能する言語環境での異文化理解という教育的なねらいをより明確にするために、研究者の方々との協働も視野に入れ、実践と理論がリンクする取り組みにしていきたい。

文責：三ツ木由佳（立命館小学校）西尾由香（四つ葉学院）





【参考資料】

○在外教育施設未来戦略 2030（文部科学省）

[https://www.mext.go.jp/content/20210603-mxt\\_kyokoku-000015472\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210603-mxt_kyokoku-000015472_02.pdf)

○四つ葉学院と本校の交流に関わる立命館小学校校長ブログ

[https://www.ritsumei.ac.jp/primary/blog/detail/?post\\_id=127](https://www.ritsumei.ac.jp/primary/blog/detail/?post_id=127)

○2022 年度 MHB 学会インターナショナル・スクール部会および各種言語教育部会 合同 SIG ミーティング「卓越したタスク事例に学ぶ」会にて情報提供「立命館小学校 5 年生とシアトル四つ葉学院日本語補習校児童との日英両言語による交流タスク」

<https://sites.google.com/site/mhbinternationalschool/Info/2022-Conference>

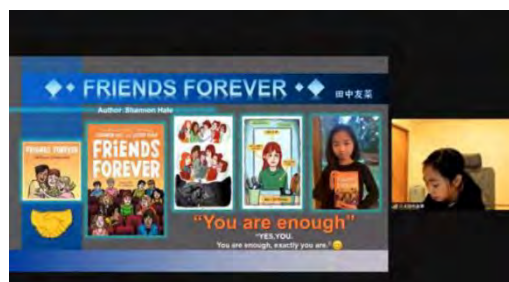
○2021 年度オンライン交流授業より（資料一部抜粋）

 <b>世界を結んで、共に学ぼう！</b>			
	日程	内容	接続先
第1回	2021年11月8日 朝の会 8:20-8:35	「補習校ってどんな学校？」 現地校長/児童との対面	学年zoom 15分程度
第2回	2021年11/15~18 ③ 10:40-11:25	各クラス（英語×国語）zoom 「ビプリオバトル」	各クラス zoom（英語）
第3回	2021年12/13~16 ③ 10:40-11:25	各クラス（英語）zoom 「広島宿泊学習・my peace交流」	各クラス zoom（英語）

9月~10/10	10月 第一回交流授業 10/25-10/28	11月 第二回交流授業 11/15-11/18
立命館小×四つ葉学院 研究提携協力  ◎授業の進め方の確認	◎日程調整・人数確認 10/10に立命館小へ報告  ◎保護者へ授業計画提示	◎日程調整・人数確認 11/1に立命館小へ報告  ◎保護者へ授業計画提示
◎海外子女教育振興財団AGS への研究計画報告	<b>主な学習活動</b> ◎四つ葉学院 国語単元「この本、 紹介します」交流会 *伝え方の工夫を考える  ◎立命館小「伝記」の紹介  ◎少人数で意見交換  ◎交流授業で学んだことの 振り返り学習	<b>主な学習活動</b> ◎国語の既習「平和教育 単元（たずねびと）の 学びを元に 発展学習 ◎立命館小「広島宿泊研修 体験」報告発表 ◎「自分にとっての幸せ」 「身の回りの平和」につい て少人数で意見交換  ◎交流授業で学んだことの 振り返り学習
◎保護者への映像使用許可 協力依頼  ◎教職員研修 ◎授業計画案の提示	交流授業シアトル時間 10/25（月）17:30~ 10/26（火）17:30~ 10/27（水）17:30~ 10/28（木）17:30~	交流授業シアトル時間 11/15（月）17:30~ 11/16（火）17:30~ 11/17（水）17:30~ 11/18（木）17:30~



既習単元の発展的学習活動  
教科横断的活動（国語、社会、図工）



**交流活動の様子**

シアトル時間 午後5時~（現地校から帰宅後）  
日本時間 午前10時~（2時間目授業）

## AG+「TCT部会」研究授業 世界と日本の学びを繋げよう

国語×音楽×英語×社会×道徳などの「教科横断型授業」体験！  
日本の立命館小学校と、世界中の補習校をZOOMで結び、日本の伝統文化と各国の地域文化や特色について、主体的に学んだことを共有。対話的な活動を通して、学びを深めよう！

**日程** 米国太平洋時間 10/30（月）10/31（火）11/1（水）11/2（木）  
17:30開始（70分授業）

**対象学年** 補習校に在籍する小学部4年、5年、6年

**関連教科**

**国語**（米村）＊それぞれの単元の導入、発展活動、既習単元の振り返り  
小学部4年単元「伝統工芸のよさを伝えよう」「パンフレットを読もう」  
小学部5年単元「古典芸能の世界一語りで伝える」  
「みんなが過ごしやすい町へ」「方言と共通語」  
小学部6年単元「古典芸能の世界一演じて伝える」  
「日本文化を発信しよう・パンフレット作り」

**音楽・道徳** 「我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材」  
「日本音楽の魅力紹介」日舞と琴演奏

こちらのURLにアクセスしお申込みください。  
<https://docs.google.com/forms/d/1SE81EXJ0MKNXZ16kZ9HfD0k2e15V7vT3aePrdtkrIk/edit>  
または、[info@yjsubjgokuhj.com](mailto:info@yjsubjgokuhj.com) までお問い合わせください。



# 世界と日本の 学びを繋げよう！

世界中の日本人補習校、日本人学校  
×  
立命館小学校5年生

当日は、アメリカ、カナダ、パラグアイ  
共和国、メキシコ、コスタリカ、ペルー  
などで学ぶ日本にルーツのある  
子どもたちと繋がります！

教科連携・横断型  
オンライン交流授業


各教科で学んだ日本の  
伝統文化を伝える相手は  
世界中で学ぶ同世代。  
日本語×英語を用いて  
グループで交流します。

授業参観  
お待ちしております！

○校内参観（各日10名）  
○オンライン参観

京都府ではの学びを子どもたちが発信  
する交流授業を共に創りませんか？  
次年度は、国内の交流校拡大を  
計画！ Come and join us!

参観申し込みは  
↓こちらより↓



2023年10月  
26日（木）  
27日（金）  
30日（月）  
31日（火）  
9:30-11:00

立命館小学校担当：三ツ木 Yukam@kctc.ritsumei.ac.jp  
京都市北区/山西上総町22（地下鉄北大路駅より徒歩5分）

